

第46期 株主通信

2013年4月1日～2014年3月31日
証券コード：7775



Open the Medical Frontier

 **COOPDECH**



8期連続で増収・経常増益

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。

平素は、格別なるご高配を賜り、心より厚く御礼申し上げます。ここに、2014年3月期決算と事業の状況をご報告申し上げます。

当事業年度におけるわが国経済は、政府主導による積極的な構造改革等への取り組みにより、円高の是正や株価上昇等が見られ、企業収益や雇用、個人消費の改善といった景気回復基調となっております。しかしながら、4月からの消費税増税による駆け込み需要の反動による個人消費の冷え込み、欧州債務問題再燃への懸念や新興国の成長鈍化などを背景に、依然として先行き不透明な状況が続いております。

また、医療機器を取り巻く事業環境は、高齢化による需要の増加に加えて、院内感染や医療事故防止のための医療用消耗品は、ニーズが底堅く、国内外で需要拡大が続いております。しかしながら、国内外の電機メーカーを中心とした異業種からの新規参入や既存メーカーの新分野への積極的な取り組みなど、他メーカーとの競合は厳しさを増しており、引き続き業界を取り巻く経営環境は厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社は、高品質製品の常時安定供給を優先事項と掲げ、ユーザーと密着した営業活動の推進、品質を確保しながらもコスト競争力をもった生産体制の構築並びに高度先進医療分野への研究開発活動の強化に取り組んでまいりました。

代表取締役社長 山田 圭一

2014年3月期の決算は、手術室用の吸引器であるフィットフィックス及び病棟用の吸引器であるキューインポットが好調に推移し、また、シリンジェクター関連では特定保険医療材料であるPCAセットが好調に推移したことにより、売上高は76億35百万円(前期比8.0%増)、経常利益は14億1百万円(前期比12.1%増)、当期純利益は8億81百万円(前期比11.9%増)となりました。

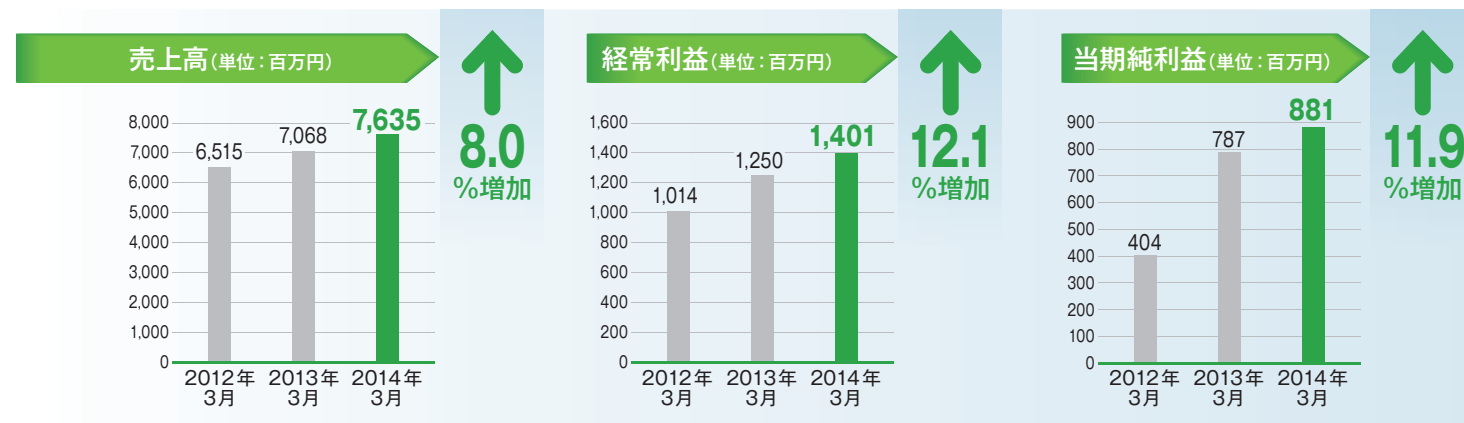
今後の当社を取り巻く環境は、医療費抑制策の基調が継続し、病院間の競争の激化や国内外のメーカーとの価格競争などにより、引き続き厳しい状況で推移するものと思われ。このような状況のもと、当社の営業・技術・製造が一体となって市場競争力を高め、独創技術で医療革命を目指す意味をこめたクーデック(COOPDECH)のブランディング強化に努めながら、さらなる業績の向上、企業価値の増大に向けて邁進すると同時に、顧客にとって不可欠なパートナーであり続けることを目指して取り組んでおります。

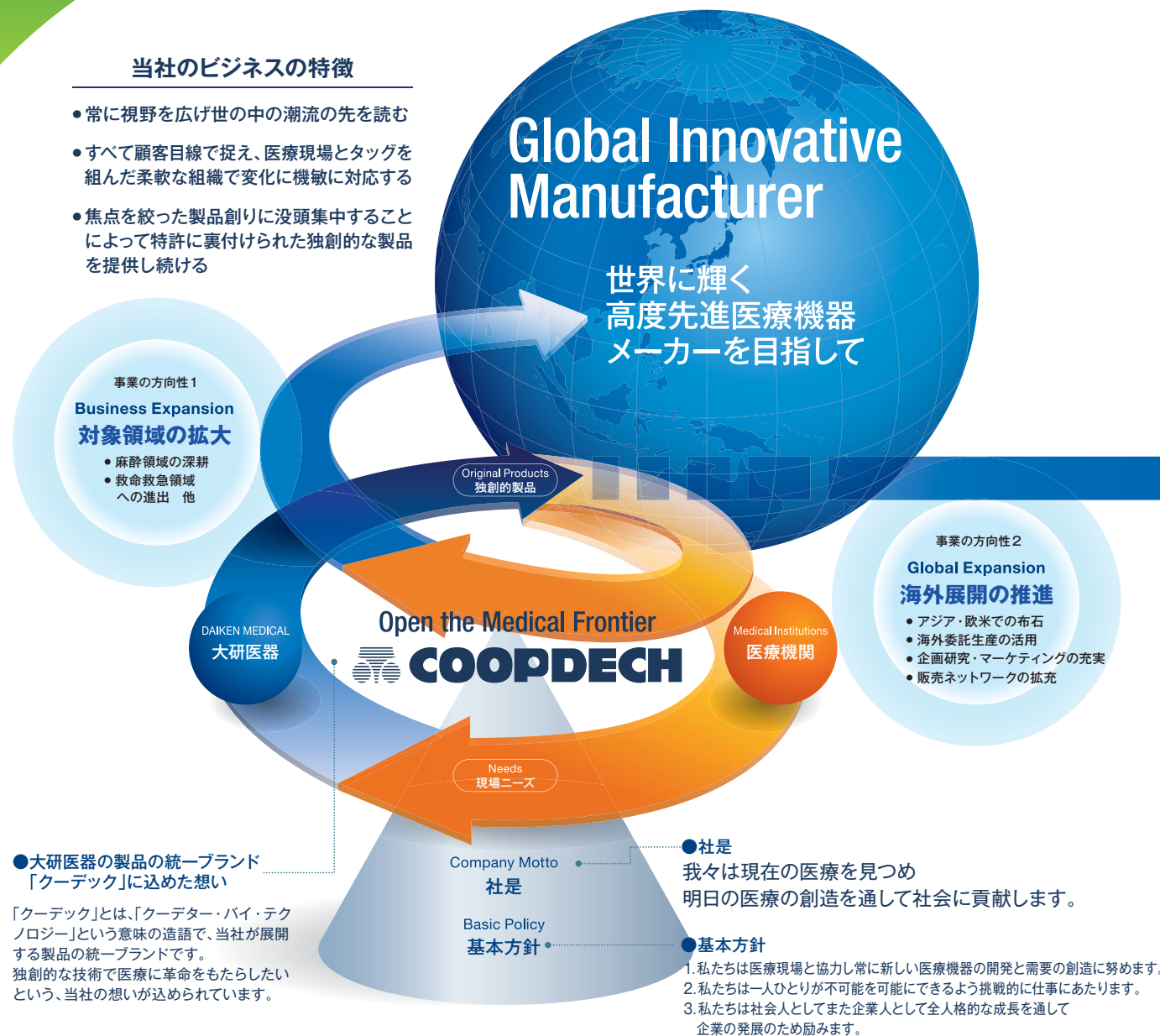
また当社が対処すべき課題として以下のことに取り組んでまいります。

- ① 既存製品の拡充・新製品の開発
- ② 海外販売の拡充
- ③ 優秀な人材の確保、教育の強化
- ④ 品質保証体制の充実
- ⑤ 強固な企業体質の確立

こうした状況を踏まえ、2015年3月期の見通しといたしましては、売上高81億20百万円(前期比6.3%増)、経常利益15億50百万円(前期比10.6%増)を計画しております。

また、当社は、株主への配当政策を重要経営課題の一つと認識し、経営成績に裏づけされた成果の配分を中間及び期末配当の年2回行うことを基本方針としております。この基本方針に基づき、2014年3月期の1株当たり配当額は年間24円(中間配当金11.75円、期末配当金12.25円)とさせていただきます。





Suction

手術中の血液や体液等の廃液を吸収し、ワンタッチで凝固させることができます。凝固剤一体型で完全密閉のため、安心して移動・焼却処分が可能で、ウイルス等の院内感染予防に貢献します。



フィットフィックス

手術中に排出された血液や体液を吸収し、貯溜するディスプレイ吸引器。



クーデック キューインポット

軽量かつコンパクトな使い捨て吸引器。病棟で簡単かつ清潔に使用可能。

Pump

手術後の痛みやがんの痛みを軽減するため、麻酔等の薬液を常に一定の流量で注入します。大気圧やメカトロニクス技術を利用することで、理想的な流量精度を実現しました。またPCAを利用することにより、現場のニーズにあわせて鎮痛剤の追加投与が可能となりました。



クーデック シリンジェクター PCAセット

大気圧式のディスプレイ注入器。薬液投与量の記録管理等が可能。



クーデック シリンジポンプ

注射筒に入った輸液を注入する電動ポンプ。高い精度で多様な流量調整が可能。

Others

救急医療や手術室等で使用する様々な製品を作り出しています。今後は、低侵襲治療に係る最先端技術の開発や在宅医療等の新領域にも挑戦し、患者様のクオリティ・オブ・ライフの向上に繋がる製品を送り出していきます。



クーデック アイクール

心肺停止の患者様の脳を冷却するための、体温調節装置システム。



クーデック ステリキープⅡ

衛生的な手洗いに使用する、殺菌水製造装置。

世界初！ 体温調節装置システム「クーデックアイクール」

2014年2月28日、国立大学法人岡山大学(岡山県岡山市、学長：森田潔)集中治療部 武田吉正准教授と共同開発した心肺停止の患者様に対し心拍再開前より脳を冷却する世界初の体温調節装置システム「クーデックアイクール」の製造販売承認を取得しました。

心肺停止時には、酸素を大量に消費する脳を低温に保つことで、脳細胞の死滅を防ぐ効果があるとされています。現在、心肺停止の患者様に対しては、主に体を冷やすシート等を巻きつけて全身の体温を下げる方法「低体温療法」を行っていますが、脳を最適な温度に冷やすには時間がかかる等の課題がありました。

「クーデックアイクール」は、かき氷等の冷たいモノを食べた時に冷たさが咽喉部(のど)から脳に伝わり頭が痛くなる現象に着目して開発しました。生理食塩水を冷やして循環させるための操作を行う機器本体と、口から挿入し咽喉部及び食道に接触させて温度を下げる冷却器(冷却カフ)で構成されており、咽喉部の奥にある動脈を冷やし、脳に向かう血液の温度を下げて脳の温度を低下させます。

「低体温療法」の これまでの課題

主に体を冷やすシート等を巻きつけて全身の体温を下げていた
脳を最適な温度に冷やすには時間がかかってしまいます。

新製品の アイデアの源

かき氷等の冷たいモノを食べた時
冷たさが咽喉部(のど)から脳に伝わり頭が痛くなる現象に着目して開発しました。



冷却カフでのどの奥の動脈を冷却

[冷却カフ]
患者様の体格にあわせて大きさを
選択できるように
3種類のサイズを用意

本品は、岡山大学が主体となり、2009年から日本全国18施設の救急救命センター等で使用し臨床研究を行ってきましたが、一定の安全性を確保し脳の温度を低下できることが確認されました。今回、医療機器として承認されたことで、これらの臨床研究施設だけでなく、「低体温療法」を実施している全国の施設において、全身冷却に先立ち使用していただけることになります。

今後、当社は、日本国内の300床以上の大規模病院を中心に提案し症例数を増やすことで、心肺停止患者の生存率向上や蘇生した後の脳障害の軽減に役立つことを立証し、普及につなげていきたいと考えています。また、将来的には海外展開や、救急現場で脳冷却を開始できる携帯型の新製品の開発も進め、救急救命医療分野を経営の柱の一つにしていく方針です。



1
本体で生理食塩水を冷却・循環

[機器本体]
サイズ: 550mm(幅)
×900mm(高さ)
×370mm(奥行)、
重量: 約75kg

<製品概要>

販売名: クーデックアイクール
一般的名称: 体温調節装置システム



■ **低体温療法とは、心肺停止等により脳が障害を受けた際に、脳の障害がそれ以上に進行することを防止するため、体温を低く保つ治療法のこと**

低体温療法は、米国における「心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドライン2010」(米国心臓協会)及び本邦における「蘇生ガイドライン2010」(日本蘇生協議会)において推奨されています。

現在、心停止後、自己心拍再開後の患者様の生存又は退院率の向上を目的として実施される低体温療法は、不整脈等の合併症発生の懸念から、循環動態が不安定な状態では行いにくい。循環動態に係る各種の検査を実施後、初めて患者様への実施が可能となり、冷却開始までに時間を要することが欠点とされています。

心停止後、自己心拍再開後に生じる脳機能障害は、主として脳内組織のグルタミン酸濃度の上昇によるものといわれており、全身冷却に先立ち脳温の低下を行うことができれば、組織内の代謝活性が抑制され、グルタミン酸の生成が抑えられることから、脳機能障害が発生しにくくなると想定されています。

新製品の 今後の目標

5年後に救急救命分野で
年間10億円の売上を目指します。

300床以上の大規模病院を中心に、心肺停止の患者様に役立て、普及につなげていきます。

流動資産 **56億66百万円**



流動資産は前事業年度末に比べて、2億78百万円増加し56億66百万円となりました。これは、主として仕掛品が14百万円減少したものの、受取手形が1億46百万円、売掛金が61百万円、製品が52百万円、繰延税金資産が34百万円増加したこと等によるものです。

純資産 **55億1百万円**



純資産は前事業年度末に比べて、4億32百万円増加し55億1百万円となりました。これは、主として繰越利益剰余金が剰余金の配当により5億円減少したものの、当期純利益を8億81百万円計上したこと、その他資本剰余金が39百万円増加し、自己株式が13百万円減少したこと等によるものです。

貸借対照表(単位:百万円)

科目	前事業年度 (2013年3月末)	当事業年度 (2014年3月末)
○資産の部		
流動資産	5,387	5,666
固定資産	2,576	2,566
有形固定資産	2,302	2,301
無形固定資産	87	93
投資その他の資産	186	172
資産合計	7,964	8,233
○負債の部		
流動負債	2,274	2,451
固定負債	619	280
負債合計	2,894	2,731
○純資産の部		
株主資本	5,066	5,500
資本金	495	495
資本剰余金	447	486
利益剰余金	4,231	4,612
自己株式	△108	△94
評価・換算差額等	0.4	0.5
その他有価証券評価差額金	0.4	0.5
新株予約権	2	1
純資産合計	5,069	5,501
負債純資産合計	7,964	8,233

損益計算書(単位:百万円)

科目	前事業年度 (2012年4月1日から 2013年3月31日まで)	当事業年度 (2013年4月1日から 2014年3月31日まで)
売上高	7,068	7,635
売上原価	3,562	3,711
売上総利益	3,505	3,923
販売費及び一般管理費*	2,244	2,533
営業利益	1,260	1,389
営業外収益	3	18
営業外費用	14	7
経常利益	1,250	1,401
特別利益	7	—
特別損失	5	18
税引前当期純利益	1,252	1,382
法人税、住民税及び事業税	492	525
法人税等調整額	△27	△24
当期純利益	787	881

キャッシュ・フロー計算書(単位:百万円)

科目	前事業年度 (2012年4月1日から 2013年3月31日まで)	当事業年度 (2013年4月1日から 2014年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,211	995
投資活動によるキャッシュ・フロー	△113	△157
財務活動によるキャッシュ・フロー	△843	△788
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	254	49
現金及び現金同等物の期首残高	1,656	1,911
現金及び現金同等物の期末残高	1,911	1,960

研究開発費 **4億34百万円**
(※販売費及び一般管理費)



研究開発費は、4億34百万円(前期比39.7%増)となりました。産学連携による先端医療機器の開発等、高度先進医療分野への研究開発活動の強化に取り組んだことによるものです。

営業利益 **13億89百万円**



営業利益は13億89百万円(前期比10.2%増)となりました。これは、主として研究開発費の増加により販管費が増加したものの、売上の拡大等により売上総利益が増加したこと等によるものです。

DAIKEN MEDICAL
News Letter

2014年2月

February

株主様向け『工場・施設見学会』を開催いたしました。

当社への理解をより深めていただけるよう、商品開発研究所・アSEMBリーセンター(大阪府和泉市)にて、株主の皆様*を対象として2014年2月4日に初めて『工場・施設見学会』を開催いたしました。

当日は、32名の方に当社製品の研究開発や製造工程の見学をしていただきました。見学後の質疑応答では多くのご質問や貴重なご意見をいただくことが出来、大変有意義なコミュニケーションの機会となりました。

*2013年9月30日現在で1,000株以上を保有されていた株主様を対象にご案内させていただきました。



参加された株主様の声(抜粋)

研究開発や工場の様子を
実際に目にする事で
会社への理解が深まった

社長自らの説明で将来の
ビジョン等が良くわかった

施設内は清潔で整理整頓が
行き届いている

2013年12月

December

『就職ジャーナルWeb版』に
当社特集記事が掲載されました。

『就職ジャーナル』は、これから就職活動を始める学生が主な読者であるため、今回は当社技術系社員の仕事内容等について詳細が記述されています。

今後各媒体に積極的に露出することで学生に対する認知度を高めると同時に、次代を担う新卒学生の採用を積極的に行ってまいります。

URL <http://journal.rikunabi.com/p/worker/science/7135.html>

理系のシゴトバ

研究所や工場など、技術系社員が働く現場はなかなか想像できないもの。そこで、各企業のシゴトバを訪問し、写真でレポート。どんな環境でどんな人たちが働いているのか、じっくりと味わってみよう。



治療の現場が抱える課題を解決する
医療機器を開発、命や健康に貢献
大研医器株式会社

会社データ

会社概要 (2014年3月31日現在)

社名	大研医器株式会社
設立	1968(昭和43)年11月5日
	代表取締役会長 山田 満
	代表取締役社長 山田 圭一
売上高	76億3,580万円
従業員数	145名
本社	〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目6番1号
業種	医療用機械器具製造販売、 医療用機械器具輸出入

役員一覧 (2014年6月25日現在)

代表取締役会長	山田 満
代表取締役社長	山田 圭一
専務取締役	山田 雅之
取締役	柳堀 真司
社外取締役	古賀 義久
常勤監査役	上原 康司
社外監査役	大工舎 宏
社外監査役	岩城 本臣

株式情報 (2014年3月31日現在)

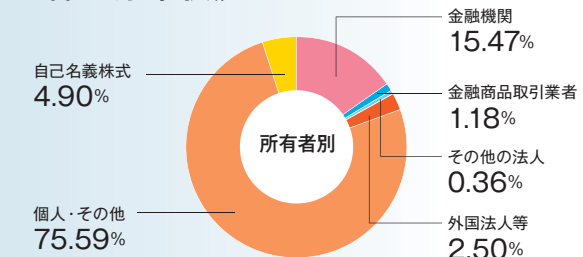
株式の状況

発行可能株式総数	51,680,000株
発行済株式の総数	15,920,000株
株主数	5,458名

大株主	持株数(株)	持株比率(%)
山田 圭一	2,938,880	19.41
山田 満	2,916,940	19.27
山田 雅之	1,497,680	9.89
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,016,000	6.71
山田 米子	659,360	4.35
野村信託銀行株式会社(投信口)	337,700	2.23
ピービーエイチ マシユーズ ジャパン ファンド	313,600	2.07
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金信託口)	229,000	1.51
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	212,300	1.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	129,800	0.85

*当社は、自己名義株式を780,808株保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己名義株式を控除して計算しております。

株主分布状況



所有者別分布状況	株主数(名)	株式数(株)	百分率(%)
金融機関	19	2,462,100	15.47
金融商品取引業者	39	187,598	1.18
その他の法人	27	57,800	0.36
外国法人等	40	397,500	2.50
個人・その他	5,332	12,034,194	75.59
自己名義株式	1	780,808	4.90
合計	5,458	15,920,000	100.00

株主メモ Stockholder Memo

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金受領株主
確定日 3月31日

中間配当金受領株主
確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL 0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

単元株式数 100株

公告の方法 電子公告により行う。
公告掲載URL <http://www.daiken-iki.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。
口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



医療社会を未来する——

大研医器株式会社

〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目6番1号 京阪神御堂筋ビル14F

TEL:06-6231-9901(代表)

<http://www.daiken-iki.co.jp/>



この報告書は、再生可能な植物油
インキを使用しています。